

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 27 年度

事業所番号	2795000286		
法人名	株式会社コミュニティハウス・夢		
事業所名	グループホームみんなの家・福ちゃん		
所在地	大阪府東大阪市六万寺町1丁目14-20		
自己評価作成日	平成 27年 6月 1日	評価結果市町村受理日	平成 27年 7月 21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosvoCd=2795000286-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪府中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 27年 6月 19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私たちの共通理念である『人を人として尊び、共に学び、共に支え合う姿勢を持ち続けること』がいに支援する、されとの関係ではなく、共に生きる姿勢を大切にしています。その事を踏まえ、私たちに出来ることは何か、それは困ったときに相談できる関係づくり、暮らしを支え合う関係を構築していくこと、専門職だけでなく地域で暮らす住民の方々と、暮らしを支えるネットワークを構築していくことであり、それをグループホームの運営を通じ行ってきたいと思います。みんなの家・福ちゃんでは共に支え合い、最後までその人らしさを失わないように最期を迎えてほしいそんな思いで笑いのたえない賑やかなグループホームを創っています。福ちゃんが大切にしていること①一日一回は大笑いする事。共に楽しみ共に喜び大きな大家族になる事。②特にプログラムは用意せず、無理せず自然に暮らす。③一人ひとりの思い、やりたい事等、個人のリズムを大切にします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長年介護に従事してきた代表・副代表が、「家族の思い、本人の思いを共に支え合い、受け入れることのできる居場所が地域にあれば」との思いから、開設したグループホームです。「近所の方々、子ども達、お年寄り、たくさんの方々が第二の我が家として自由に立ち寄れる家を創りたい」との思いが集まって誕生しました。鶯の鳴き声が聞こえ、ホームのすぐ前の川には蜚が飛ぶ等、自然の環境にも恵まれています。自分の家で過ごすように、一人ひとりの思いややりたい事、利用者一人ひとりの生活リズムを大切にしています。夜間に2名の職員を配置し、職員が安心して働くことのできる職場環境は、離職者が少なく、チームワークもよく、ホーム全体が明るく穏やかな雰囲気を作っています。美味しい食事も、利用者の大きな楽しみのひとつになっています。職員は、ホームでの看取りの貴重な経験から学んだことを、日々のケアに活かしています。「福ちゃん」の名前のように、ほのぼのとした温かい雰囲気の中で、いつもどこから利用者・職員の明るい笑い声が聞こえてくるグループホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>コミュニティハウス・夢としてデイ・グループホーム共通理念となっている、『人を人として尊び、共に学び、共に支えあう姿勢を持ち続けること』と互いに支援する、されとの関係でなく、共に生きるという姿勢を大切にし、その思いを職員間で共有することにより、より良い介護を実践できるように努めています。</p>	<p>「人を人として尊び、共に学び、共に支えあう姿勢を持ち続けること」を会社の理念とし、フロアに掲示しています。グループホームでは、「1日一回は大笑いすること。共に楽しみ、共に喜び大きな大家族のようになること」「特にプログラムは用意せず、自分の家で過ごすように自然に過ごしてもらおうこと」「一人ひとりの思いややりたい事、個人の生活リズムを大切にすること」を暮らしの中で大切にしています。その実践は、自由で笑い声の絶えない暮らしを実現しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	約3年が経過し地域の方々にも施設の存在が浸透しました。季節の行事などは近隣の方々から開催日の問い合わせを頂けるようになりました。 地域の回覧板を入居者の方々が届けられ事などを通し交流を図れています。また行事の際には地域の子供たちも参加して下さったので、これからもその関係を続けたいと思います。	自治会に加入し、回覧板は利用者と一緒に届けています。事業所と地域の関係は、年々密なものになっています。地域の祭りに参加し、神社の布団太鼓は事業所の前まで来てくれます。事業所の夏祭りは、地域住民からも大勢の参加があり、今年も開催を心待ちにしています。散歩の途中で庭越しの立ち話や、犬の散歩の途中でホームに立寄る地域の方、近所の子どもがホームに入ってきて遊ぶ等、地域住民との付き合いが日常的な光景です。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や広報誌などで認知症ケアの話題を発信しています。 又、地域包括の関係者との交流をとおして支援の方法を学んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行い。事業所の取り組みやサービスの状況を包み隠さず報告し、会議の中での意見やアドバイスをサービスの向上に生かす努力をしています。 推進会議を通し地域包括の方々などにも協力して頂ける環境を作ることができています。	自治会会長、婦人会代表、地域包括支援センター職員、市社会福祉協議会職員、認知症コーディネーター相談員、家族、利用者等が参加し、2ヶ月に1回開催しています。ホームで看取った利用者の元家族も、参加者として応援しています。会議では、主に事業所の状況、行事の内容、職員研修の内容等を報告・説明し、参加者から評価や助言を得て、事業所の運営に活かしています。行事で遠出をするにあたり、費用面で家族に負担をかけることについて相談したところ、積立で対応することになり、利用者や家族からも喜ばれています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	十分な連携を図り、協力関係を構築し、その都度相談を行っています。	分からないことがあれば都度、市の担当課に相談しています。代表が役員をしている事業者連絡会には、毎回出席しています。連絡会には、市の担当者も出席し、情報交換と連携を深めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	採用時に身体拘束をしないケアを説明し、被介護者を自分に置き換え、されて嫌なことをしないと意識し、職員は常に拘束に繋がらない介護方法について話し合い取り組んでいます。また、玄関の施錠はせず、自由に出入りが出来るようにしています。	身体拘束については、事業所の身体拘束回避方針、身体拘束の弊害、身体拘束をしない工夫等の詳細なマニュアルを作成し、研修も実施しています。代表や管理者は、「自分が言われて嫌なことは言わない」ことを職員に伝え続けています。自分の家で過ごすように、自然な暮らしを大切にする考えから、玄関は開錠しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議で虐待防止の徹底を図り施設内外研修にも参加し、意識の向上を図っています。日々の生活の中でも職員間の意見交換を行い、防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修・外部研修で権利擁護に関する制度の理解を深める努力を行っています。社会福祉協議会との連携により一人の方の活用につながって居ます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に不明な点が残らないように、重要事項説明及び契約内容について、十分説明、話し合いを行い理解納得の上にて契約をして頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日々の生活の中で、個々の利用者の想いをくみ取り、対応できるよう努めている。玄関に意見箱を設置し、書面にて苦情相談を受け付けていることを明記している。又、意見や要望があれば運営推進会議などでも話し合うことにしていますし、面会時にその都度お話をお聞きし、ご意見などもお聞きするようになっています。</p> <p>また入居者の方々には食事アンケートを実施することにより希望を把握し、好みや量などを日々の食事に反映しています。</p>	<p>家族の訪問も多く、訪問時にはその都度利用者の様子を報告し、意見や要望を聞いています。家族からの意見や要望は、申し送りノートに記入し、職員間で共有しています。また、意見や苦情は会議でも共有しています。また、ホームでの生活状況が伝わる写真入りの新聞を毎月発行し、「居室担当より一言」と個別の通信欄を設け、一人ひとりの様子を家族に伝える工夫もしています。「笑顔が少ない」との家族から意見があり、諦めずにコミュニケーションをとる中で、利用者にも笑顔が出て、家族の安心に繋がった事例もあります。利用者には毎年、食事アンケートを実施し、食事サービスの向上に活かしています。</p>	<p>外出や行事の際、家族の協力を得ていますが、今後は更に、充実した行事となるよう、家族と手を携えて、利用者の暮らしを共に支える取り組みを検討されてはいかがでしょうか。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回のグループホーム会議では管理者を含み全員出席とし職員の率直な意見を交換できる機会を設けて、意見の反映に努めている。</p> <p>また、上記の会議を補足するために代表を中心とした少数の会議も行っている。</p>	<p>毎月の会議は、併設するデイサービス職員の協力により、全員参加の会議ができています。日常的にも意見が表出しやすい雰囲気づくりを大切にしています。夜勤2名配置をはじめとし、職員が働きやすい職場環境への配慮は、職員の士気を高め、チームワークもよく、離職者も少なくなっています。美容師・マッサージの経験を持つ職員に、利用者の拘縮改善に向けての勉強会をしてもらう等、職員の経験も活かしています。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>個々が働きやすい職場環境の一環として、1ユニット9名ではありますが、夜勤体制を2名体制とし、緊急時や日々の相談などが出来るよう配慮しています。給与面では、資格手当、能力に応じた算定を行い働きやすい環境づくりに努めています。</p> <p>給与に関しては、介護職は安いと言われてはいますが、できるだけ生活できる水準に上げるよう努めています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人一人と話し合う機会を設け、どのような介護職になりたいのか、研修を受けたいのかを聞きながら、力量にあった研修を個々で選択し受けて頂くように努めています。研修の機会を確保し、研修の費用は会社が負担。外部研修を受けた職員が会議などで、伝達研修を行うようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の行う事業者部会や全国セミナーなどを通し、他の事業所との交流を図る機会を設け、サービス向上に取り組んでいます。 また、法人内の研修や外部の方に講演をして頂き、グループホームでの活動の中で改善に向けた検討も行っています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まず現状のグループホームを見学いただき、それにより事前相談や、契約の段階で、本人の思い、不安、要望等を十分にお聞きし、安心していただけるサービスの提供がより良い信頼関係につながると思い日々、努力し、より良い関係づくりを行うように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	プライバシーに配慮しながら、家族の思いをよく聞かせて頂き、ご家族の不安を解消できるサービスの提供に努めることがより良い関係、信頼関係が出来ると思います。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当者を中心に、他の機関や介護支援専門員の方々とも連絡、調整を図りながら、家族、本人のニーズに合った対応に心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中で、お互いに支援する、されとの関係だけではなく、共に生きる姿勢を持ちながら、普通の生活を続けていけるような支援関係を築く努力を惜しまないように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何事もホームの職員だけの判断ではなく、毎日の生活の些細なことも家族に伝え同じ想いを常に持ち、家族との絆を深める努力を惜みず、共に支え合っているもの同士として、より良い関係づくりをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いままでの生活や家族関係にも配慮しながら、面会・外出、外泊などまた、行事の参加をして頂いています。 また昼夜問わず面会に来ていただくことが可能なことを伝え、それにより気兼ねせず面会に来ていただいています。 また、気軽に自宅に帰れるように可能な限りの支援を行っています。	馴染みの友人や元同僚が訪問しています。行きつけの美容院に通う利用者もいます。併設のデイサービスに行き、顔なじみの方に会えるのを楽しみにしている利用者もいます。利用者一人ひとりの長い人生に思いを馳せ、これまでの生き方を尊重する支援を行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や、感情の変化を理解し、より良い関係を生活の中で築いていただけるようにしています。関わりを持つことが苦手な方に対しては職員が間に入ることにより孤立を防ぎ、利用者同士が自然にかかわり、支え合える支援に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了された方々の家族様にも会報誌を送らせていただいたり推進会議に参加して頂き互いの近況を報告し合っています。それにより終了後ならではの貴重な意見を窺うことも出来ました。また、今後も関係が続いていけるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活の中での会話や、言葉、表情等記録に残し、其の方の思いや意向を把握できるように努めています。生活歴・出来ること、できない事シート、アセスメントからも把握に努めています	利用者一人ひとりから、思いや意向を引き出せるよう、関わり方を工夫しています。その際に発せられた思いや意向を察知して、連絡ノートや日誌に記録し、ミーティングにより職員間で共有しています。ケース記録は、利用者の暮らしぶりが見えるような詳しい記録となっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に可能な限り本人・家族・関係者の方々よりお聞きし可能な限り情報収集を行っています。又、日々の生活や会話の中から聞き取り把握に努め又家族の方の協力で生活歴を作り個々の情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの現状の出来ること、できない事を把握し、ご家族、本人からも要望を聞き、個々の生活リズムを把握、本人にあった生活が提供できるように努めています。月1回の会議の中でも確認しています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>本人らしく暮せるために、日々の生活の中で、家族には来所時または電話で思いを確認し、必要に応じ、主治医・看護師などとも協力いただき、意見を反映した介護計画を作成するように努めています。</p>	<p>職員は居室担当制をとっており、それぞれ介護計画を念頭に置いたケアを実施しています。毎月の会議の中で、モニタリングを実施しています。利用者に体調の変化等があった時は、主治医・看護師の協力で家族と一緒に話し合いができる体制をとり、都度介護計画に反映します。計画作成担当者は、利用者本人の思いを汲み取った計画を心がけ、職員間で留意してほしい事を計画の中に記載しています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>入所時には初期観察記録を書き個々の情報収集を職員で共有しています。情報共有の為、職員ノートを活用。気づきや、工夫等個別記録に残し、常に職員間で共有し、全体会議で話し合い介護計画の作成を行っています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人の希望に応じ、併設のデイサービスで自由に過ごして頂くなど、その時々ニーズに合わせ柔軟な対応を行っています。</p> <p>又、少なくとも、月1回は外出に出かけたり、お天気が良ければ、散歩や買い物に出かけたりその時々で柔軟に対応できるように努めています。</p> <p>また、家族の方のお泊りや一緒に食事して頂くのも可能でお声をかけ、初めて看取りをさせて頂いた際、家族の方は、最期の夜と一緒に泊まれスタッフと共に看取って頂きました。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>夏祭りには沢山のご近所の方々が参加して下さったり、クリスマス会には利用者様のご家族よりご紹介いただいた方が、ボランティアでキーボードを演奏しに来て下さったり、介護エンターティナーの作業療法士の先生が笑いを交えながらクイズや体操をして頂きました。最近では近所のお子さんが気軽に訪問し楽しんでいただいています。地域の秋祭りには声を掛けさせていただきホームの前までだんじりに来てもらい地域の子供達とも交流をはかる事ができました。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入所時にお話を伺いご希望の主治医に診て頂くようにしています。内科医の月2回(3回の方もある)の他にも24時間連絡をすればすぐに駆けつけて下さる体制をとっています。また週2回の看護師と往診医の連携のより些細な変化もすぐにわかるように情報を共有しています。</p> <p>他の医療機関へはホームでの様子が記録されたものをお渡しし家族付き添いで行かれ、行けない時はホームで行かせて頂いています。</p> <p>本人や家族の希望を重視し、家族の協力を得ながら適切な医療が受けられるように支援しています。</p>	<p>入居前からかかりつけの医療機関へは、希望があれば受診可能です。家族が付き添って受診する際は、ホームの様子が記録されたものを家族に渡し、医療機関に情報提供をしています。ホームの協力医は、毎週往診に来てもらっています。協力医や看護師との連携がよく、緊急時にも対応できる体制が整っています。協力医の訪問を楽しみにしている利用者もいます。</p>	
31		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>週2回看護師に来ていただいています。日々の心身の状態や情報、気づきなどを伝え、指示を受けています。又、緊急時には24時間体制で対応して頂き、主治医との連携を密にとり適切な受診や看護が受けられるように支援しています。</p> <p>訪問時には個々の記録を残し、職員が共有できる体制になっています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は必要情報の提供に努め、入院時の経過報告の確認を行っています。退院時には療法上の注意点等の現状把握に努めご家族とも密な情報交換を行い、スムーズな支援を行うように努めています。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の意向や家族の意向を考慮し、支援方針を共有する為に、Dr・Ns.ご家族・スタッフ全員で会議を行います。その上で交換ノートを作り全員で情報を共有します。 密に話し合い本人、家族の意向を踏まえ、グループホームでの出来ること出来ない事を互いに確認し合い、家族の方が納得したうえで、主治医、訪問看護師との連携を図りチームで支援に取り組みます。	終末期を迎えるにあたり、本人や家族の意向を大切に、「重度化対応・終末期ケア対応指針」を作っています。主治医・訪問看護師・家族・職員全員で会議を行い、チームで連携して支援に取り組んでいます。看取り後も振り返り会議を開き、実践した経験を今後、最大限に活かせるようにしています。看取り時に作った交換ノートも、家族と職員を繋ぐ大切な情報共有ツールとなっています。看取りの後、利用者のアルバムと写真をスライドショーにして、家族に見てもらいました。看取り後も、家族は運営推進会議に参加する等、交流を継続しています。看取り支援の中で、利用者に1日でも長生きしてもらうため、職員の心が一つになった、貴重な経験をすることができ、その後のケアに活かしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署から救急救命講習を来て頂き、ご近所の方も一緒に参加して頂き勉強しています。定期的に訓練を行い、実践力を身に付けていきたいと思えます。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行いました。 26年11月9日には消防署の方にも協力して頂き、火災発生時の対応の仕方、消防署への通報の仕方や避難訓練を行い、消火器の使い方の練習の時にはご近所の方も参加して頂きました。5月8日には防災設備会社より消火訓練と設備の点検に来て頂き、27日には消防署の方が点検にこられました。万が一に備え水やチョコレートを地下に保管し、日常の食材は食品庫に保管しています。防災グッズもひとまとめにし準備しています。夜間も2名の勤務体制を整えています。 これからも、協力体制を築き、より安全に生活ができるように努めたいと思えます。	防災・安全面を考慮して、平屋建ての構造にしています。災害時マニュアルも作成し、年2回避難訓練を実施しています。内1回は消防署の指導のもとで行っています。消火器の使い方は、地域の方も一緒に練習しました。昨年は、スプリンクラーも設置しました。夜間2名勤務体制や連絡網の整備等、災害対策に工夫しています。災害時に備えて、水や食料品も備蓄しています。	今後は、夜間を想定しての訓練を実施し、より確実な避難誘導ができるように備えていくことが期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は自分に置き換え、心地よいケアや声掛けを心がけています。また一人一人のペースに合わせ対応しています。	会社の理念の中にある「いくつになっても、人を人として尊ぶ」ことについて、代表や管理者は、具体的に伝えていきます。職員が入職した際は、「自分が言われて嫌なことは言わない」ことを伝え、職員は実践しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望で自己決定できるよう、よく気持ちをお聞きした上で支援させて頂いている。表せない方は、表情をくみ取り自己決定に近づけるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が利用者の気持ちや希望を把握し、利用者のペースで一日を過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように、希望に沿って支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で入居者と一緒に採った野菜を食事の材料に使うなどし、全員で芋掘りを行い庭で焼き芋もしました。またお誕生日や節目のお祝いごとにはお一人ずつに好物を聞きメニューに取り入れています。他には皆で鍋を囲んだり、お好み焼きや焼きそば・鉄板焼きを目の前で焼いたりとする過程から楽しんでいただいています。また出来る人には副菜副食の取り分けや、配膳、後片付けも手伝ってもらっています。	食材は、生協から新鮮な野菜と共に注文しています。それ以外に必要な物は、利用者と一緒に買い出しに行くこともあります。料理の基本である出汁にもこだわっており、キッチンからおいしい出汁のにおいがリビングいっぱい漂っています。大きなテーブルを職員も一緒に囲んで、ゆっくり食事を楽しんでいます。食事が美味しいこともホームの自慢のひとつで、調査訪問時も、「美味しい」との声が聞こえました。配膳や洗った食器を拭いている利用者もおり、自宅で暮らしているような雰囲気になっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考え献立を作り一人ひとりの食事量の把握をしている。水分についてはこまめにお出しし、必要に応じて記録し把握している。またその人に応じて細かく刻み、ミキサーやとろみを使用するなどの配慮をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分でできない方には、スタッフが支援しています。その他の方には、声をかけ、一人ひとりの力に応じた口腔ケアの支援を行っているが、毎食後はできていない方もおられます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレで排泄できるよう一人一人の排泄パターンを把握し声かけや誘導を行い、その方の能力に応じ見守りや介助を行っています。	トイレでの排泄を基本としています。職員は排泄チェック表に記録し、それをもとに利用者一人ひとりの排泄パターンを把握しています。個々の状況に合わせてさりげなく声をかけ、誘導しています。丁寧に排泄支援を行い、布パンツを維持している利用者がいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	予防対策として毎朝食に腸の活性化に良いとされているヨーグルトや果物を食べて頂いています。また、食事は野菜を中心に1日30品目を摂取して頂く工夫を行い、それでもなお便秘気味の人には牛乳を飲んでいただき、水分を多い目に摂って頂いています。運動や体操も取り入れ、ご自分で出来ない方にはマッサージも行っています		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	風呂好きの人には毎日入っていたり、ご本人が希望される時間帯に入浴していただいたり、一人ひとりの希望やタイミングに合わせた入浴支援をおこなっています。また好みのシャンプーやリンスなどがある方は、用意して頂いています。	隔日の入浴が基本ですが、毎日入浴する利用者もいます。浴室は広く清潔で、リフトを設置し、重度化した利用者も安心・安全に入浴できます。入浴剤で色や香り等にも工夫し、より入浴を楽しんでもらいます。また、本人の好みや個人の肌質に合ったシャンプーを用意する等、細かな配慮を行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	日中は個々の居室やソファ、ま たリクリーニングで自由に休息 して頂き夜間は居室の室温や寝 具の状態、入眠状況の確認を行 い安心して気持ちよく眠れる よう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る	職員は薬についてほぼ理解して おりその人の力に応じた服薬支 援を行っている。症状の変化を 確認している。特に便秘薬など は排便状況を把握し医師の指 示のもと薬の調整をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている	その人の力に応じ、掃除や洗濯 物干しやたたみ、食器拭き、食 事用意などを手伝ってもらった り、散歩、外気浴、買い物で 気分転換してもらったり、おや つを一緒に作ったりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿って、戸外に出て外気浴や近隣を散歩してご近所の方とお話したり、また本人の買いたいものなどは一緒に買い物に出かけご自分で選んで頂いています。概ね月1回全員で外食や美術センターの他にも個別で希望される所へ出かけています。	初詣、季節ごとの花見、外食、美術鑑賞等、行事としての外出の機会は多くあります。近隣を散歩の途中、地域の方と庭越しに話をする姿は日常的になっています。食材やおやつの買い物にも行っています。職員が市役所等に出かける際、利用者も一緒に行くこともあります。夜、ホームの前の川に、ホタルを見に行きました。玄関横にはパラソルが付いたテーブルと椅子を配置し、利用者は自由に外へ出て、天候や季節を感じています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	何人かの方には少額の現金を持っていただいているが、基本的には金銭管理は職員で行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望される時は職員が取次ぎをして電話をかけていただき、ご自分で書いた手紙を出されたりもしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	金魚の飼育や季節の花を飾るなどし、自然の風を取り入れて季節感を感じてもらっています。リビングの天井は高く空間の広がりがあり、窓からの採光で部屋は明るく、リビングには床暖房を完備しています。トイレや浴室など常に清潔を保ち消臭を心がけ、トイレにも気温差が生じないように暖房を入れ、快適に過ごして頂く工夫をしています。	建物は平屋で、玄関前のスペースが広く、天気の良い日には日光浴や、食事をすることもあります。玄関を入るとすぐに明るくて広い吹き抜けのリビング兼ダイニングになっています。高窓からは自然光が入り、真ん中に置かれた大きなテーブルと横にはソファがあり、床暖房になっています。リビングから見えるキッチンからは、ご飯の炊ける匂いや食事の準備の音が聞こえ、生活感が漂っています。大きな水槽には、祭りの時に買った金魚も元気に泳いでいます。利用者は、自室よりみんなの居るリビングが落ち着くと、それぞれ好きな場所で寛ぎたくなる快適な空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファや、リクライニングチェアを置き、その方の一番落ち着く場所、居心地のいい場所で思い思いに過ごして頂くようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様と相談し本人の使われていた家具などを持って来て頂いたりして、ご本人が住み慣れていた部屋の雰囲気に近い家具の配置などの工夫をしています。又畳で生活されていた方には畳の居室で過ごして頂いています。	居室は、畳の部屋とフローリングの部屋があり、和室で生活されていた方は、畳の居室を使っています。使い慣れたタンスや椅子、テレビ、家族の写真、ぬいぐるみ等に囲まれ、落ち着いた雰囲気になっています。一般的な家と同じ感覚を大事にする思いから、各居室に名札は付けていない状況です。担当職員が心を込めて作った、手作りのメッセージカードも、居心地の良さを大きくしています。利用者の若い時の趣味のポスターや楽器をさりげなく飾る等、一人ひとりの想いを大切にする支援を実践しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの出来ることを理解し、その人の力に応じた行動を見守り、安全に過ごせるように工夫しています。		